

< 基 礎 分 野 >

授業科目名		国語表現		担当教員名	外 部 講 師（実務経験有）	
実 施 時 期		1 年	前 期	単位・時間	1 単位	15 時間
授業の 概要と目的		事実や意見、感じたことや考えたことを的確に表現し伝える様々な方法（ことば／書き方／法則（文法）／スピーチ）を紹介する。 文章の作成やスピーチを通して、言葉で表現することの重要性を体験する。 表現におけるリテラシーを紹介する。 本授業を通して ① 学習の過程で必要な国語表現の基礎を知る。 ② 知り得た国語表現の知識を学習活動や自己表現に応用する。				
到 達 目 標		① 事実や意見、感じたことや考えたことを的確に表現する。 ② 認識の多様性を自己や看護への問いとして応用できる。				
回数	単元	授 業 内 容				
1	国語表現の基礎を知る	ことばの機能				
2		文章の種類と構成				
3		話しことばの基本				
4		伝える文章（1） 物語				
5		伝える文章（2） 小論文／レポート／手紙／メモ				
6		伝える文章（3） 絵を見て書く／スピーチ ①				
7		伝える文章（4） 文章を読んで書く／スピーチ ②				
8		ことばの伝達力をみがく／スピーチ ③				
授業形態		講義 演習				
評価方法		レポート（100％）				
テキスト		未定				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名		論理学		担当教員名	外 部 講 師（実務経験有）	
実 施 時 期		1 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的		論理(学)の基本(根本)をわかりやすく解説し、大切な論理(ものの見方・考え方)を楽しく学べるよう指導する。 本授業を通して ① 知的(客観的・合理的)な見方・考え方を学ぶ。 ② 論理的な思考力・表現力を養う。 ③ 実生活・実人生における“生きた論理力”を身につける。				
到 達 目 標		論理(学)とは何かを学び、その具体的実践を通して、論理的な思考力と表現力を修得する。				
回数	単元	授 業 内 容				
1	「論理」及び論理的な思考と表現	私たちにとって “論理” とは何か？ 純粋論理と「現実の論理」 “生きた論理を活かす”				
2		論理的思考（Ⅰ） 論理学の根本原理と基本的な論法 ロゴスの誕生と論理学の流れ 〈そしてその未来への展望〉				
3		論理的思考（Ⅱ） 一日々の生活から— 演繹法と帰納法（基本的な論理の組み立て）				
4		論理的思考（Ⅲ） 一対話の理論— 弁証法 〈矛盾と統一、そして自己との対話〉				
5		論理的思考（Ⅳ） 一発見の理論— 仮説と検証 〈科学と人間〉 ロジカル・イノベーション				
6		論理的思考（Ⅴ） 一飛躍の理論— 様々な発想法 〈自由で豊かな発想力をめざして〉				
7		論理的思考力をつけるために… 考え方を‘論理的に知る’（さまざまな「知」の技法） “学び” の術				
8		自己と論理 “自己力” と“論理力”（そして“生きる力”） 自己探求から“自己実現”へ 《自分の夢を》				
9		論理の実践（演習） 論理的主張 あるいは討論（質疑応答） 「なぜ？」と問う				
10		論理的表現力をつけるために… 読む力・書く力・聞く力・話す力 “自分自身の言葉で考えて”				
11		見えざる大切な論理問題と “問題解決学” 発見と驚き、そして笑い “論理をたのしむ”				
12		論理と心（精神） “脳” 力開発について 客観的合理性と心の健康 〈自己治療と論理療法〉 “夢” の論理と “幸せ” の論理				
13		人間社会の論理とコミュニケーション 日本語の論理性と非論理性 〈明晰さと曖昧さ〉				
14		“創造(性)” とは… 〈人の“自然性”（自然力）に及んで〉 主体的かつ創造的に、論理を生き活かし ‘論理を超えて’				
15		評価（2 時間）				
授業形態		講義				
評価方法		レポート（25％） 筆記試験(75％)				
テキスト		なし（随時、講義内容に合わせてプリントを配布）				
参考図書		村井忠司著 『創造の秘密 Homo Creans』 新風舎 村井忠司著 『創造の源泉 葦牙の如く』 桂書房 岩崎武雄著 『正しく考えるために』 講談社				

授業科目名		情報科学		担当教員名	外部講師（実務経験有） 外部講師（実務経験有） 酒井 吉仁（理学療法士）	
実施時期		1 年	前期	単位・時間	1 単位	15 時間
授業の概要と目的		「情報」の意味や活用について学ぶ。また、パーソナルコンピュータソフトの操作演習を通して、情報リテラシーとして、文章作成ソフトの活用、表計算ソフトによるデータ処理とグラフ作成、プレゼンテーションソフトの利用方法を学ぶ。また、統計処理の基本について学ぶ。 本授業を通して ① 基本的なコンピュータ・リテラシーを獲得する。 ② ワードプロ、表計算などのアプリケーションソフトの利用方法を習得する。 ③ コンピュータネットワークを利用する情報検索における基礎的能力を養う。 ④ 統計処理の初歩を習得し、表計算ソフトを活用した分析操作をする能力を養う。				
到達目標		① パソコンの基本的な機能を理解し操作できる。 ② ワードプロソフトを利用し文書作成ができる。 ③ 表計算ソフトを利用し、簡単な集計、統計処理、グラフの作成ができる。 ④ プレゼンテーションソフトを利用し、プレゼンテーション資料の作成ができる。				
回数	単元	授 業 内 容				担当
1	ICTの基本	ICTの基本と学習情報リテラシー インターネット 情報セキュリティ ネットモラルについて				外部講師
2	PCの基本操作	タッチタイピング ワードプロソフト（MS Word）の基本				外部講師
3		表計算ソフト（MS Excel）の基本 数式と関数、データの並べ替え、フィルタ機能、ピボットテーブル、 グラフ作成・編集				
4		プレゼンテーションソフト（MS PowerPoint）の基本 MS Word、ExcelとPowerPointの連携				
5	統計処理の基礎	ガイダンス 統計とは基本統計量 度数分布とヒストグラム				酒井
6		代表値と散布度				
7		推測統計正規分布				
8		まとめ				
9		評価（1 時間）				
授業形態		講義 演習				
評価方法		筆記試験（20％） 実技試験（30％） レポート（50％）				
テキスト		『新訂版 看護・医療系のための情報科学入門』 サイオ出版				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名		看護物理学		担当教員名	外 部 講 師（実務経験有）
実 施 時 期		1 年	前 期	単位・時間	1 単位 30 時間
授業の 概要と目的		力学を中心に、看護実践における動作の基本原理を学ぶ。 本授業を通して ① 安全かつ効率的な看護を実施するための力学について理解する。			
到 達 目 標		① 力学の基礎を理解する。 ② ヒトの動作の力学を理解する。			
回数	単元	授 業 内 容			
1	学ぶ物理を準備	単位と数値の計算			
2	物体の運動	等速直線運動			
3		等加速度運動			
4		自由落下			
5	力と運動	力と加速度			
6		運動量と力積			
7		運動量保存の法則			
8	力のつりあい	力のつりあい（ベクトル）			
9	力のモーメント	力のモーメント			
10		身体重心			
11	仕事とエネルギー	仕事と仕事率とエネルギー			
12					
13	圧力	力の作用する面積と圧力			
14		浮力			
15		ゼミナールなど、まとめ			
16		評価（2 時間）			
授業形態		授業内容に応じて、講義および演習の形態を併用			
評価方法		筆記試験（100％）			
テキスト		『系統看護学講座 基礎分野 物理学』 医学書院			
参考図書		適宜紹介			

授業科目名		心理学		担当教員名	外 部 講 師（実務経験有）	
実 施 時 期		1 年	前 期	単位・時間	1 単位	15 時間
授業の概要と目的		心理学について基本的な事項、心理学の考え方を学ぶ。 本授業を通して ① 心理学の知識、考え方の理解から、人間の心・行動の理解を深める。 ② 人間理解から自己理解、対象理解の基本的態度を養う。				
到 達 目 標		① 人間の心の働きを理解する。 ② 自己を省察することができる。 ③ 広い視野から自己理解と他者理解する視座と態度を身につける。				
回数	単元	授 業 内 容				
1	人間の心理・行動の原理	心理学の問題 心理学とは 心理学の発展 心理学の研究方法 知覚の心理 知覚の成立 知覚の種類 知覚研究の応用				
2		記憶の心理 記憶の諸相 忘却の心理 記憶の工 思考・想像・言語の心理 思考・想像心理 言語の心理				
3		知能の心理と知能検査 学習の心理 学習の心理 練習の心理				
4		感情・情緒・情操の心理 感情の諸相 感情・情緒の異常 適応の心理 人と環境 適応・不適応 適応の機制				
5		集団の心理 集団の形成と機能 集合行動 発達の心理 発達の原理 発達段階の特徴				
6		健康の心理と人間理解 患者行動の理解 ストレス理論				
7		看護職者の心理				
8		バーンアウトとストレス対処				
9		評価（1 時間）				
授業形態		講義				
評価方法		筆記試験（100％）				
テキスト		『系統看護学講座 基礎分野 心理学』 医学書院				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名		教育学		担当教員名	外 部 講 師（実務経験有）	
実 施 時 期		1 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的		教育の歴史と意義、学校教育の特徴と課題、子どもと大人の関係について学ぶ。 本授業を通して ① 「教育」について考える。 ② 一人の社会人および一人の専門的指導者として必要な教育上の知識や技能を習得する。				
到 達 目 標		① 教育の本質と目標を理解する。 ② 教育について人間発達論的な視点から考える。 ③ 看護の現場で教育的な実践ができる。				
回数	単元	授 業 内 容				
1	人間と教育	人間と教育（１）－歴史的・社会的側面 なぜこの世に教育というものが生まれたのかを、歴史的、社会的な側面から学ぶ。				
2		人間と教育（２）－生物学的側面 人間の成長と発達にとって教育がどのような役割を果たすのかを、生物学的な側面から学ぶ。				
3	学校教育の歴史	学校の誕生と展開（１）－西洋古代中世 学校というものがどのようにしてこの世に誕生したのかを、西洋前近代の歴史のなかから探る。				
4		学校の誕生と展開（２）－西洋近代 なぜ子どもは子ども時代を学校で過ごさなければならなかったのかを、西洋近代の歴史のなかから探る。				
5		学校の誕生と展開（１）－近代前期の日本 明治から第二次世界大戦敗戦までの日本の学校教育の展開を学ぶ。				
6		学校の誕生と展開（２）－近代後期の日本 第二次世界大戦敗戦から１９７０年代までの日本の学校教育の展開を学ぶ。				
7	教育の方法と評価	教育の方法と評価 子ども理解と教育の方法、教育の評価について学ぶ。 情報リテラシーと ICT				
8		教育の方法と評価 子ども理解と教育の方法、教育の評価について学ぶ。				
9	中間試験 第１回から第８回までの範囲についての理解度を確認する。					
10	現代日本と教育改革	現代日本の教育改革（１）－内容と方法 1990 年代半ば以降の教育改革について、内容と方法の面から理解する。				
11		現代日本の教育改革（２）－制度 1990 年代半ば以降の教育改革について、制度の面から理解する。				
12	子どもの権利条約と教育	子どもの権利条約と教育（１） 子どもの権利条約の内容と教育的な意義について理解する。				
13		子どもの権利条約と教育（２） 教育場面での子どもの権利侵害として、いじめ・不登校・体罰を取り上げ、現状と課題を学ぶ。				
14	学校教育から生涯学習へ	学校教育から生涯学習という考え方への転換がなぜ、どのようにして生じたのか、その背景について学ぶ。 生涯学習の目的、内容、方法、課題について学ぶ。				
15		評価（２時間）				
授業形態		講義				
評価方法		筆記試験（50％）、毎回授業後に提出する講義カード（50％）				
テキスト		田嶋一ほか『やさしい教育原理』（第3版） 有斐閣				
参考図書		特になし（適宜プリント資料を配付）				

授業科目名		家族社会学		担当教員名	外 部 講 師（実務経験有）	
実 施 時 期		1 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的		「家族」に関する様々な事象・出来事を通して、家族の概念、構造機能、家族社会が抱える問題を学ぶ。 本授業を通して ① 看護現場での家族看護・家族サポートについて考える。				
到達 目標		① 客観的視座で「家族」を捉える。 ② 看護の理論を利用し、家族看護に応用する。 ③ 本授業で身につけた家族に関する理解を、自身の家族経験や今後の生活に応用する。				
回数	単元	授 業 内 容				
1	社会とは社会学	社会と個人、社会の規則性				
2		予言の自己成就				
3	現代社会の家族	さまざまな家族の形態、核家族化、少子化				
4		晩婚化・非婚化、性別役割分業				
5	社会的に不利な立場にある人々と家族	映画『不登校の真実』				
6		家族の動揺と子どもとのやりとり				
7		子どもの居場所の重要性				
8		教育制度と家族の負担				
9		精神障害をめぐる社会の対応の変遷				
10		映画『人生、ここにあり！』				
11		社会のルールと逸脱、病人役割、病気行動				
12		医学モデル、生活モデル、ストレングス・モデル				
13	死と家族	映画『大病人』				
14		死のアウェアネス理論 悲嘆のプロセス				
15		評価（2時間）				
授業形態		講義				
評価方法		筆記試験（100%）				
テキスト		なし				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名		哲学		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施時期		1 年	前期	単位・時間	1 単位	15 時間
授業の概要と目的		「哲学」をわかりやすく、かつ簡潔に解説し、“哲学する心”、その基本精神（思考法）を楽しく学べる（有効に自得できる）よう導いていく。 本授業を通して ① 哲学を、その起源（原点）から現代に到るまでの進展を理解し、己がものとして修得する。 ② 実生活・実人生における“哲学する”ことの大切さを学び、それを自ら有効に生かしていく。 ③ 誰もが（自分の奥に）秘めている哲学的能力（資質）を高め、深め、己が未来を切り開いていく。				
到達目標		哲学、その精神と思考のしかたを己がもの（新たな可能性）として修得し、それを活性化して実生活、更には実人生に、（自然に、かつ有意義に）生かしていけるよう、初期的鍛錬を担う。				
回数	単元	授業内容				
1	「哲学」その精神（思考法）を修得し、自ら（に）生かす	私たちににとって「哲学」とは？（とりわけ自分にとって） 神話(ミュートス)から 哲学(ロゴス)へ 自然(宇宙)を問い始めたミレトス学派から「万物は流転す」のヘラクレイトスへ				
2		ソフィスト(相対主義)から ソクラテス(真の知の探究)へ “無知の知(自ら問う、自らに問う)” (理想主義的)プラトンから (現実主義的)アリストテレス「万学の祖」へ 生き方として アパテイアとアタラクシア そして エウダイモニア(幸福)へ				
3		カント(批判的認識)から ヘーゲル(弁証法的論理)へ 自己との対話(アウフヘーベン) 「生の哲学」(ニーチェ) 生きる喜び(ニヒリズムの克服) “超越” ヘレニズム(知)とヘブライズム(信) イエス・キリスト(愛)				
4		古代インド(梵我一如、悟り、慈悲 …) と 古代中国(仁、老荘、知行合一 …) 日本の思想(和、自然法爾、禅 …) 「むすび」(自然の創成、実際の創造性)と清明心 学ぶ喜び、学べる喜び(たのしみ、おもしろがる能力、それが自分を生かす)				
5		「生命(いのち)」とは何か？ (その不可思議さにあつて) 生きる(生活する)とはどういうことか？ 働く喜び 多様性における共生(競生、協生) “生ける心”(自己も他者も共に生かす) 「清く明るく(美しき心)」は本当に可能か？				
6		人間の学(ホモ・サピエンスから ホモ・ナトゥラリスへ) 神と人間 人間性を高め、深めるために… アルケーとアレテー 人生は芸術？(その虚実) 遊び心も笑いも				
7		“哲学する” 自分自身の(自分による、自分のための)哲学が自分を生かす 「哲学」(その心と考え方)を己がものとし、生かしていくことの大切さ 自然なる(自由なる)創造人(クリエイター)として ‘哲学を超えて’				
8		評価（1 時間）				
授業形態		講義				
評価方法		筆記試験（100％）				
テキスト		なし（講義内容に応じて随時、補助プリントを配布）				
参考図書		『ナイチンゲール言葉集』（現代社） 『ヒポクラテスの医学論集』（岩波文庫） その他、適宜紹介				

授業科目名		倫理学		担当教員名	外部講師（実務経験有） 外部講師（看護師） 外部講師（助産師） 若林 理恵子（看護師）	
実施時期		1 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的		現代に至るまでの倫理学の流れを理解することを通して、その基本的な考え方を おの 己がものとして活かせるよう、その方法について学ぶ。 本授業を通して ① 現代の医療現場で生じる生命倫理の諸課題について考察することを通じて、 倫理的感性を養い、課題へのアプローチ方法について理解を深める。				
到達目標		① 倫理学の基本的知識、理論について説明できる。 ② 医療現場で遭遇する倫理課題について説明できる。 ③ 看護実践の中での倫理課題に気づき、アプローチ方法を考えることができる。 ④ 看護における倫理的に適切な実践力を身につける。				
回数	単元	授 業 内 容				担当
1	倫理学とは	倫理（学）とは何か				外部 講師
2		（欧米を中心に）海外の倫理思想				
3		日本の倫理思想				
4		「愛」、「善」、そして「幸せ」について				
5	生命倫理・看護倫理	生命倫理とは何か、生命倫理の歴史				外部 講師
6		生命倫理の理論、生命倫理の4原則、ヨーロッパの倫理原則、 インフォームドコンセント				
7		死の生命倫理				
8		先端医療と生命倫理				外部 講師
9		生殖の生命倫理				
10		看護倫理とは何か				
11		専門職の倫理 看護職の倫理綱領 保健師助産師看護師法等				若林
12		看護実践と看護倫理 看護実践の中での倫理課題に気づく				
13		倫理的課題へのアプローチ ツールの活用				
14		グループワーク 事例から倫理的課題へのアプローチ方法を考える				
15		グループワーク 発表				
16		評価（2 時間）				
授業形態		講義				
評価方法		レポート（100％）				
テキスト		『系統看護学講座 別巻 看護倫理』医学書院				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名		人間関係論		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施時期		1 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的		人間関係の基礎的な考えや方法を学ぶ。 本授業を通して ① 看護援助にとって最もふさわしい人間関係とは何かについて考える能力を養う。				
到達目標		① 人間関係とは何かを考えることができる ② 看護実践における諸問題をとおり、看護援助にとって最も、ふさわしい人間関係とは何かについて考えることができる。				
回数	単元	授 業 内 容				
1	人間関係基礎概論	人間存在と人間関係 人間関係のとらえ方 人間関係の基本的意				
2		看護ケアや社会福祉援助における人間関係のとらえ方				
3		社会的相互作用と社会的役割 社会的相互作用				
4		社会的役割 援助的役割を実現するためのガイドライン				
5		コミュニケーション コミュニケーションの基本概念 コミュニケーションの障害				
6		援助的コミュニケーション カウンセリングの技法 IT 機器の普及に伴う効用と問題点				
7		人間関係の研究と応用 人間関係に関する研究 カウンセリングに関する理論と実践 看護ケア、福祉への応用				
8	看護における人間関係	人間関係の向上へのスキル 体験による学習効果 体験学習の基本姿勢 体験学習の源流 構成的な体験学習 看護教育での体験学習の課題				
9		保健医療チームにおける人間関係 保健医療チームの特質 保健医療チームにおけるチームワークの意義 チームワークを促進する要因と阻害する要因 専門職の協力と連携に向けて				
10		闘病生活を支える人間関係 患者・家族と保健医療従事者 闘病を支える人間関係				
11		家族の人間関係と看護師のかかわり 家族関係論と看護ケアの視点				
12		家族看護の進め方				
13		ソーシャルサポートをめぐる人間関係 ソーシャルサポートとは ソーシャルサポート-ネットワークの活用 ボランティアを活用するための指針				
14		ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係 ノーマライゼーションの基本概念 「援助すること」の再考 セルフヘルプ-グループの広がり QOL の向上を目指す制度と援助				
15						
16		評価（2 時間）				
授業形態		講義 演習				
評価方法		筆記試験（100%）				
テキスト		『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』 医学書院				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名		英語 I		担当教員名	外 部 講 師（実務経験有）	
実 施 時 期		1 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的		本授業を通して ① スピーキングの基礎となる力を養うために、英語の歌を教材として使用し、歌詞に表現された感情を理解して音読できるように練習する。 ② 英語Ⅱで医療英語を学ぶための基礎力を養うために、基本的な英文法の演習問題に取り組む。				
到 達 目 標		① 国際共通語としての英語の音声の特徴を理解して、英語を聞き取ることや、英語特有のリズムで音読することができる。 ② 日常的な内容を、簡潔で正確な英語で表現することができる。				
回数	単元	授 業 内 容				
1	英語コミュニケーションの基礎と応用	オリエンテーション、Unit 1: You're Beautiful				
2		Unit 2：I Want It That Way				
3		Unit 3：The First Time				
4		Unit 4：Complicated				
5		Unit 5：My Heart Will Go On				
6		Unit 6：With You				
7		振り返り①（Unit 1-Unit 6の習得度確認）				
8		Unit 7：Torn				
9		Unit 8：You Are Not Alone				
10		Unit 9：You Gotta Be				
11		Unit 10：How Crazy Are You?				
12		Unit 12：Desperado				
13		Unit 14：Sunday Morning				
14		振り返り②（Unit 7-10, Unit 12, Unit14の習得度確認）				
15		授業のまとめ（コミュニケーションスキルの習得度確認）				
16		評価（2時間）				
授業形態		講義 演習				
評価方法		筆記試験（50%） 実技試験（10%） 授業中の活動（40%）				
テキスト		『ポップスでスタート！基礎英語（Let's Learn English with Pop Hits!）』，成美堂				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名		英語Ⅱ		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施時期		2年	前期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的		本授業を通して ① 医療や看護の現場で英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度と基礎的な能力を養う。 ② 医療英語の表現に慣れ親しむために、医療や看護の実際的な場面を想定した会話を繰り返し練習する。				
到達目標		① 看護に関わる基本的な医療英語を理解することができる。 ② 日本語が話せない患者さんと英語を使って円滑なコミュニケーションを図ることができる。				
回数	単元	授業内容				
1	受付と診療科への案内	オリエンテーション、Unit 1（受付で質問する：個人情報に関する質問と応答）				
2		Unit 2（症状を尋ねる 1：体の部位）				
3		Unit 3（症状を尋ねる 2：症状と診療科）				
4		Unit 4（院内を案内する：院内の部屋の名称、位置や方向）				
5		振り返り①（Unit 1－Unit 4の復習）				
6	問診と検査	Unit 5（身長と体重を計測する：数字、単位）				
7		Unit 6（病歴や生活習慣を尋ねる：病名）				
8		Unit 7（痛みについて詳細を尋ねる：痛みの原因、痛みのレベル）				
9		Unit 8（診察や検査で患者に指示する：基本的動作）				
10		振り返り②（Unit 5－Unit 8の復習）				
11	患者への対応と診察の予約	Unit 9（診察の予約を受け付ける：日時、曜日）				
12		Unit 10（薬について説明する：薬を服用する際の指示、薬の名称）				
13		Unit 11（手術前の患者に接する：手術の準備、健康観察）				
14		振り返り③（Unit 9-11の復習）				
15	授業のまとめ	コミュニケーションスキルの習得度確認				
16		評価（2時間）				
授業形態		講義 演習				
評価方法		筆記試験（50%） 実技試験（10%） 授業中の活動（40%）				
テキスト		『看護系学生のための実践英語〔改訂版〕』，朝日出版社				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名		生活科学		担当教員名	外 部 講 師（管理栄養士） 外 部 講 師（陶芸家）	
実 施 時 期		1 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的		人間の生活に関わる物資や環境と人間との相互作用について学ぶ。 本授業を通して ① 衣・食・住から、人間関係、健康、環境、文化など生活者の視点を基盤に、快適な生活環境の創造・想像を目指す。 ② 多様化する社会で何を選択するのか、自分がこれからどのように生活したいのかを再確認する。				
到 達 目 標		① 人間の身体機能（生理・運動・知覚）を統合し、生活環境を調整・整備する。 ② 快適な生活環境を考える。 ③ 看護実践の現場における療養生活環境を整える。				
回数	単元	授 業 内 容				担当
1	衣の環境	被服の役割 被服材料の種類と特性被服の管理 衣服と環境問題				外部講師
2	食の環境	健康と栄養素の働き 献立作成				
3		食品の安全性（食中毒・食品添加物・残留農薬・輸入食品など）				
4		環境と食生活 食品添加物				
5	住の環境	安全で快適な住まいとは 周囲の自然環境・社会環境の重要性 これからの住生活 ・環境との共生 ・人との共生				
6	生活を創る	経済的自立のための消費活動消費者問題				
7		演習（レポート提出） 身近に起きている問題を新聞・ニュースなどから見つけ、自分の問題として考える				
8		環境と生活 気候 災害 環境破壊				
9		生体リズムと生活リズム				
10		室内環境の調整 室内気候・換気・陽光（照明）・物音・清潔・家具（器具）				
11						
12						
13	食文化と機能美	陶芸（食文化における生活の実践的機能美）				
14						
15						
16		評価（2時間）				
授業形態		講義 演習				
評価方法		筆記試験（80％） レポート（20％）				
テキスト		未定				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名		保健体育		担当教員名	外部講師（実務経験有） 外部講師（実務経験有）	
実施時期		1 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的		スポーツの実践を行う。 本授業を通して ① 健康の保持増進、疾病予防、健康回復、苦痛緩和を保証する身体活動（スポーツ）の価値を理解する。 ② 挑戦することで「自尊心（自己効力感）」を高め、他者との協働（折り合い）の中で「感情調整」し、他者への「敬意・尊重（思いやり）」を示す。 ③ 「生活の質」を維持し、自分らしい生活を続けるためにスポーツに親しむ態度を身につける。 ④ 心身ともに健康な看護師を目指す。				
到達目標		スポーツ実践を通して、以下の能力の獲得を目指す。 ① 体力 ② 技能 ③ 心理的スキル（自尊心・自己効力感・感情調整・敬意・尊重・思いやり） ④ スポーツに親しむ態度				
回数	単元	授 業 内 容				担当
1	身体健康と 活動	健康の保持促進、疾病予防、健康回復、苦痛緩和を保証する身体活動（スポーツ）の価値				外部 講師
2						
3	スポーツに親しむ	ウォーキングの基本				外部 講師
4		ウォーキング（滑川市内）				
5						
6		バスケットボール				外部 講師
7						
8						
9		バドミントン				
10						
11						
12		卓球				
13						
14						
15		体ほぐし				
授業形態		講義 実技				
評価方法		実技（70%） レポート（30%）				
テキスト		随時配布				
参考図書		適宜紹介				